

第34期 中間報告書

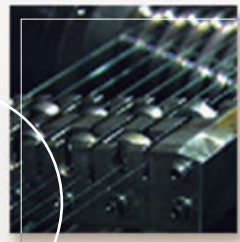
平成21年7月1日から平成21年12月31日まで



Medical Brand



Medical OEM



Device

Dream



Medical Brand

目次

ごあいさつ ————— 2

連結財務ハイライト ————— 3

トピックス ————— 5

セグメント別営業の概況 ————— 7

第2四半期財務諸表（連結） ————— 9

- 四半期連結貸借対照表
- 四半期連結損益計算書
- 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

会社の概要・株式の状況 ————— 11

株主メモ ————— 13



Medical OEM



Device

株主の皆様へ



株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、ここに当社グループ第34期第2四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成21年12月31日まで）の営業の概況についてご報告申し上げます。

当社グループが属する医療機器業界は、人口の増加と高齢化により世界市場は拡がりつつあります。また従来は、米国・欧州・日本など医療設備が充実した先進国に偏った市場構造でしたが、昨今では中国を主体としてBric's等の市場が急速に拡大するなど、市場構造は変化しつつあります。

日本国内におきましては、本格的な高齢化社会を迎えていることから、厚生労働省により医療費抑制政策が推進され、加えて内外価格差の是正等を目的として、保険償還価格の引下げや、診療報酬包括化等の医療制度改革が進められております。民主党への政権交代を挟んで、今後の議論の行方は不透明な状況にありますが、医療費抑制政策は加速する可能性があるかと推測されます。さらには、医療機器の販売に向けた事業に関する承認プロセスなども日本は欧米に比べて厳しい環境下にあるため、医療機器業界は益々厳しい環境下にあり、特に国内の医療機器企業は合理化と企業戦略の見直しが求められているといえます。

また足元の経済環境は、日本経済におきましては輸出の回復や政策効果の持続により、景気的最悪期から徐々に脱しつつあり、世界経済においても各国の景気対策の効果に支えられ、内需を中心に回復基調を強めているものの、回復のペースは足取りの鈍さなどから緩慢なものに留まっており、医療機器業界のみならず産業機器業界におきましても、厳しい経営環境にあるといえます。

このような環境の中、当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は、景気悪化に伴う産業機器分野の不調や、ドル安などが替動向の変化に伴う売上高減少などのマイナス影響を受けたものの、医療機器分野における自社ブランド製品が国内海外ともに大変好調な売上であったことなどから、74億9百万円（前年同期比21.2%増）になりました。

売上総利益は、第二の生産拠点である連結子会社ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.の立上げに伴う諸経費の増加

や、たな卸資産を中心に資産内容の再評価を実施し収益体質の強化を図るなど在庫圧縮に努めたことにより売上原価が増加したものの、タイパーツ安などが替動向の変化に伴う製造経費の減少や、主要原材料であるステンレスやプラチナなどの価格下落に伴う原材料費の減少、アボット・ラボラトリーズ社からの大量受注に対して第一の生産拠点である連結子会社ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD.を中心に順調な生産稼働が行われたことなどから、売上総利益率が上昇し、41億78百万円（同27.8%増）となりました。

営業利益は、販売費及び一般管理費の研究開発費用が増加したものの、総じて経費圧縮に努めた結果、ほぼ横ばいに推移したことから、16億47百万円（同103.0%増）となりました。

経常利益は、円高の影響があるものの、為替差額が減少するなどし、15億61百万円（同300.5%増）となりました。また、当四半期純利益は、特別損失計上の投資有価証券評価損が大きく減少するなどし、10億6百万円（前年同四半期は2億86百万円の四半期純損失）となりました。

当社グループは、研究開発型企業として、医療及び産業機器分野において、安全と信頼を基盤とする「Only One」技術や「Number One」製品を世界に発信し続けることにより、全てのお客様の「夢を実現するとともに、広く社会に貢献していくこと」を企業理念としております。また特に、当社グループの医療機器分野事業は、主に、傷口が小さく痛みの少ない「低侵襲治療」の製品を開発・製造・販売しており、患者様の肉体的・精神的・経済的負担を軽減し、そして医療費抑制にも貢献できる、大変意義のある事業であると考えており、今後も、社会に貢献できる企業であり続けることで、社会からも市場からも評価される企業として、さらなる成長を遂げたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月

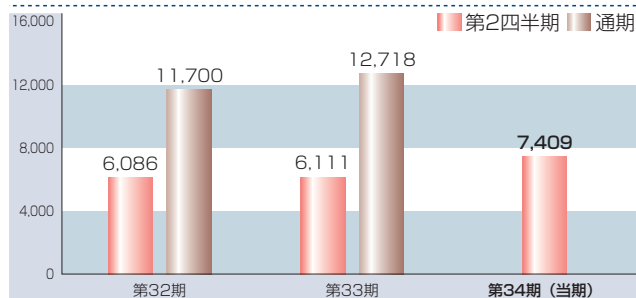
代表取締役社長

宮田 昌彦

連結財務ハイライト

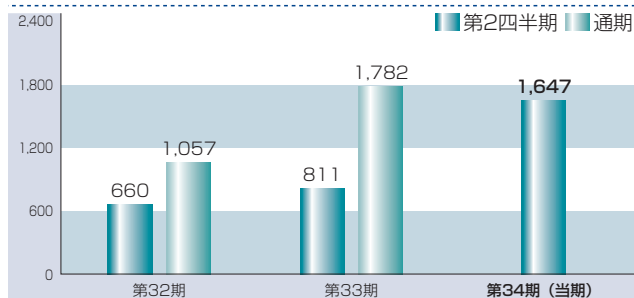
売上高

(百万円)



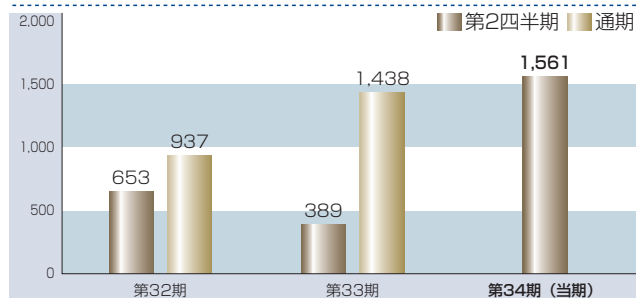
営業利益

(百万円)



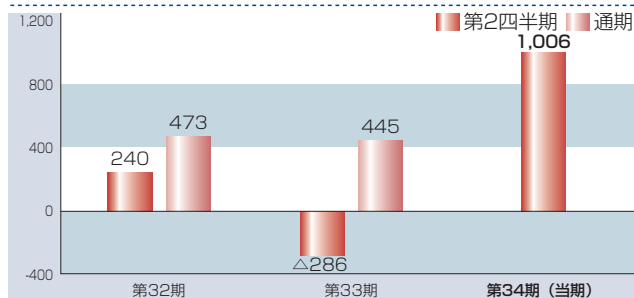
経常利益

(百万円)

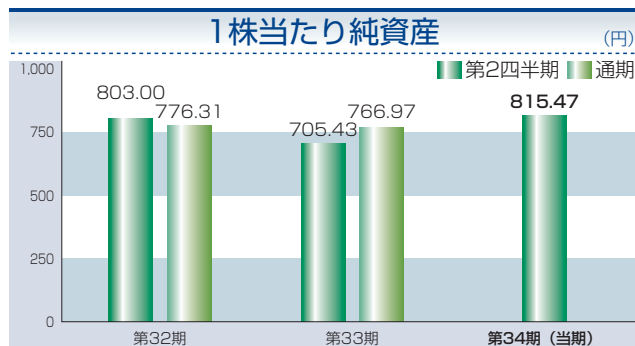
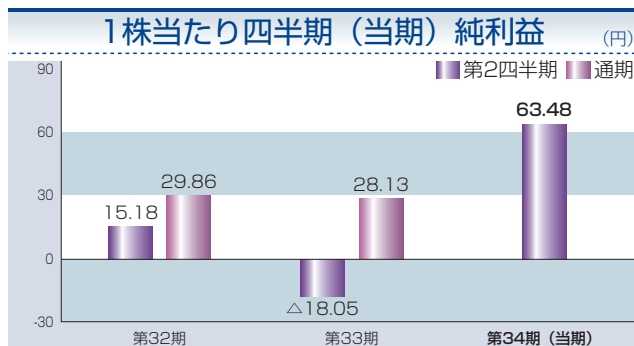
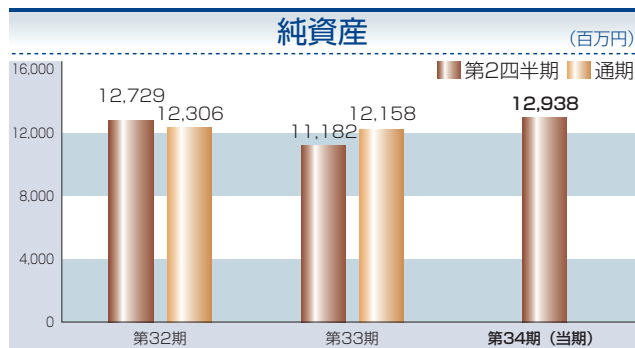
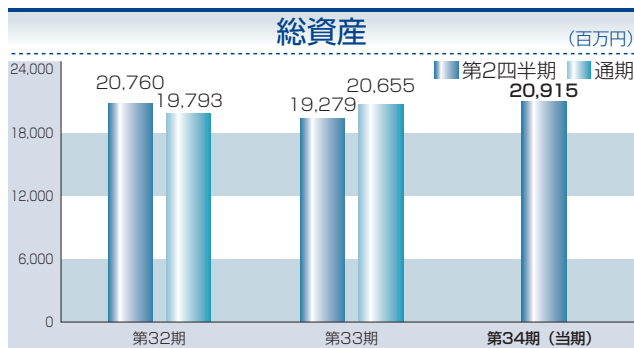


四半期(当期)純利益

(百万円)



区 分	第32期第2四半期 (19年12月第2四半期)	第32期 (20年6月期)	第33期第2四半期 (20年12月第2四半期)	第33期 (21年6月期)	第34期第2四半期 (21年12月第2四半期)
売上高(百万円)	6,086	11,700	6,111	12,718	7,409
営業利益(百万円)	660	1,057	811	1,782	1,647
経常利益(百万円)	653	937	389	1,438	1,561
四半期(当期)純利益(百万円)	240	473	△286	445	1,006



区分	第32期第2四半期 (19年12月第2四半期)	第32期 (20年6月期)	第33期第2四半期 (20年12月第2四半期)	第33期 (21年6月期)	第34期第2四半期 (21年12月第2四半期)
総資産(百万円)	20,760	19,793	19,279	20,655	20,915
純資産(百万円)	12,729	12,306	11,182	12,158	12,938
自己資本比率(%)	61.3	62.2	58.0	58.9	61.8
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	15.18	29.86	△18.05	28.13	63.48
1株当たり純資産(円)	803.00	776.31	705.43	766.97	815.47
1株当たり配当金(円)	0.00	17.50	0.00	8.00	0.00

Topics 1

新製品のご紹介！

貫通カテーテル「ASAHI Corsair」国内販売開始！

既に先行販売された海外において高い評価を得ている「ASAHI Corsair」について、2010年1月より国内販売を開始することになりました。

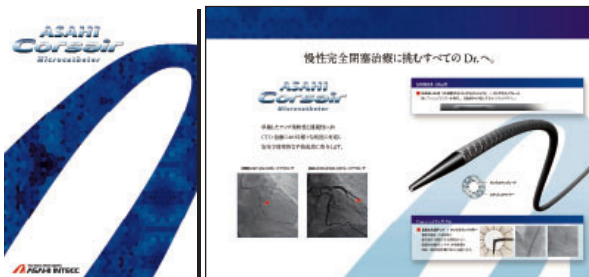
「ASAHI Corsair」は、主に慢性完全閉塞（CTO：注1）等の高度狭窄病変に対する冠動脈カテーテル治療（PTCA治療）において、ガイドワイヤーの操作性を維持することを目的に、当社独自の設計と技術によって開発・製造された治療補助用具です。

「ASAHI Corsair」の持つ高い通過性能は、CTO治療の成功率向上のための新しい手技方法として注目されており、先行発売された海外において、すでに多くの学会やライブデモンストレーションでも紹介され、高い評価を得ております。

現在のPTCA治療において、残された課題と言われるCTO治療戦略に貢献する新たな製品として、さらなる市場シェアの拡大を図って参ります。

〔注釈説明〕

注1 CTO（慢性完全閉塞：Chronic Total Occlusion）／血管が動脈硬化により100%石灰化し、血管が詰まった状態をいいます。



脳血管系分野に初進出！

当社グループとして初の脳血管内治療用ガイドワイヤー「ASAHI CHIKAI」が誕生いたしました。

当社グループは、現在、医療機器分野の製品の使用領域について、循環器領域のみならず、腹部や末梢血管、さらには脳血管系領域など、患部領域を広げることを戦略の一つにかかげております。既に腹部、末梢血管領域については製品化に成功しており順調な拡大を続けておりますが、脳血管系領域への進出はこれまでの課題であり、当社独自の技術力を生かした高い優位性を持つ製品を開発すべく努力を続けて参りました。

今回販売開始する「ASAHI CHIKAI」は、循環器分野で長年培ったガイドワイヤーの設計技術を駆使した、当社初の脳血管内治療用ガイドワイヤーであり、これまで高い評価をいただいております。トルクパフォーマンス（注2）に加え、脳血管治療に適した先端柔軟性と高いデバイス追従性を兼ね備えた製品です。「ASAHI CHIKAI」の販売により、新たな患部領域である脳血管内治療の市場シェアの獲得を図って参ります。

〔注釈説明〕

注2 トルクパフォーマンス／当社の医療用デバイスは、その優れた回転追従性により市場から高い評価を受けています。これは、当社独自の加工設備と特殊トルク技術によってワイヤーに理想的な回転追従性を持たせることができるからです。他社が実現できなかった優れた回転追従性がガイドワイヤーやカテーテルなどの製品に付与され、高度な操作性を実現しています。



Topics 2

CCT 2010 活動報告

CCT（注3）2010が、2010年1月28日～30日の3日間の日程で、神戸国際展示場・ポートピアホテルにて開催されました。

今回、当社グループでは新製品貫通カテーテル「ASAHI Corsair」・CTO用PTCAガイドワイヤー「ASAHI ULTIMATEbros 3」にフォーカスし、展示ブースや共催ライブ・セッションにて、本製品の国内販売開始報告及び製品性能についてのPR活動を大々的に行いました。

国内外から本学会への参加者は延べ5,500人にのぼり、当社共催イベント「CTO Course」では会場内がほぼ満席の大盛況となりました。展示ブースでも多数のご訪問者に製品説明をさせていただき、製品に対する印象を強く持っていただくことができました。今後も情報発信と、それに伴う販売拡大に尽力して参ります。

〔注釈説明〕

注3 CCT（Complex Cardiovascular Therapeutics）／世界規模のライブデモンストレーションを通じて最新のカテーテル治療の国際標準化をはかることを目的とする国内最大級の冠動脈カテーテル治療学会です。



Topics 3

コンパスメッドインテグレーション株式会社が「朝日インテックJセールス株式会社」へと社名変更

これまで当社製造の医療用カテーテル製品を主に販売してきた当社連結子会社コンパスメッドインテグレーション株式会社が、今後「ASAHIグループ」としての位置付けを明確にし、企業としての信頼性・認知度の向上を図ることを目的として、2010年1月1日付をもって「朝日インテックJセールス株式会社」へと社名変更をいたしました。

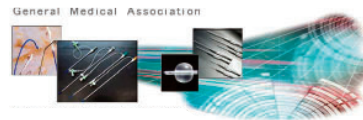


Topics 4

ジーマ株式会社の連結子会社化について

当社グループが競合他社に対して高い技術優位性を保ち、かつ継続的な成長をするための施策の一つとして、強い樹脂技術力を持つジーマ株式会社との取引関係をより強化することが望ましいと判断し、1月7日においてジーマ株式会社の株式の取得を行い、連結子会社化いたしました。

両社はこれまで、カテーテル分野において、それぞれ独自に事業展開を行ってまいりましたが、この提携により、各々の得意分野を有効活用し、融合することによって、新たな製品可能性を広げ、さらなる企業価値拡大に繋げていきます。



セグメント別営業の概況

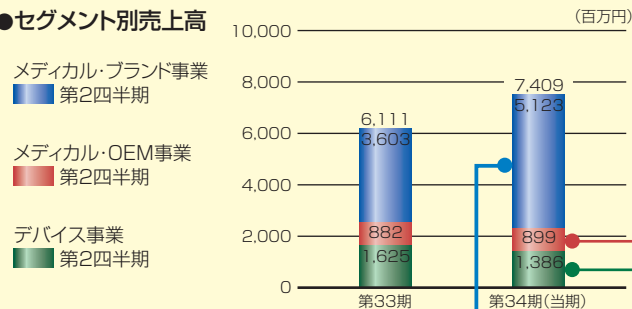
当社グループは、従来、チューブ等の医療機器分野の部材については、「インダストリアルデバイス事業」において製造のほぼ全てを行い、それを「メディカルデバイス事業」が販売しておりました。また、「インダストリアルデバイス事業」においては、産業機器分野の部材に比べ、医療機器分野の部材を開発・製造する割合が増加しております。

これらの実態を考慮し、当期から産業機器分野及び医療機器分野の部材を「インダストリアルデバイス事業」において一貫して製造・販売する体制に変更しております。また、この体制の見直しの一環として、従来「メディカル事業」で製造・販売していたスneaについても、「メディカルデバイス事業」で製造・販売する体制に変更しております。

以上の体制の変更に伴い、「メディカル事業」を「メディカル・ブランド事業」へ、「メディカルデバイス事業」を「メディカル・OEM事業」へ、「インダストリアルデバイス事業」

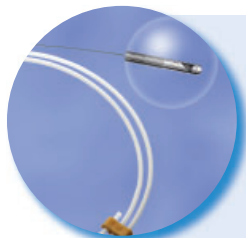
を「デバイス事業」へ名称変更を行っております。なお、下表の数値は、前第2四半期のセグメント情報を、当第2四半期において用いた事業区分の方法により区分したものであります。

●セグメント別売上高

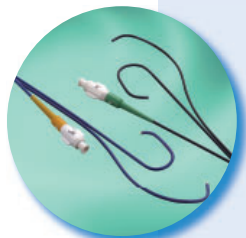


Medical Brand

メディカル・ブランド事業 ~国内海外市場で売上好調~



PTCAガイドワイヤー



PTCAガイディングカテーテル

メディカル・ブランド事業の売上の大部分を占める治療用カテーテルシステムの売上高は、国内海外ともに順調に推移いたしました。国内売上高につきましては、循環器系の主力製品であるPTCAガイドワイヤーが引き続き好調に推移したことが全体を牽引し、また同じく循環器系の製品であるPTCAバルーンカテーテル、さらに循環器系以外の製品であるPTAバルーンやペリフェラルガイドワイヤー、新分野である脳血管系カテーテル類製品なども好調に推移するなど、総じて順調に推移いたしました。海外売上高につきましては、ドル安など為替動向の変化に伴う売上高減少の影響を受けたものの、米国・欧州・アジアなど世界

的にPTCAガイドワイヤーの売上高が大きく増加した他、同じく循環器系の製品であるCTO用マイクロカテーテル「Corsair（コルセア）」が米国・欧州地域等への販売開始により売上高が増加、さらに循環器系以外の製品であるペリフェラルガイドワイヤーの売上高が米国企業との契約締結により新規に増加するなど、大変順調に推移いたしました。

なお、検査用カテーテルシステムについては、国内海外ともに価格競争となっており、売上高は減少いたしました。

以上の結果、売上高は51億23百万円（前年同期比42.2%増）、営業利益は18億28百万円（同88.2%増）となりました。

Medical OEM

メディカル・OEM事業 ~新領域分野への進出~



内視鏡処置具（スナア）

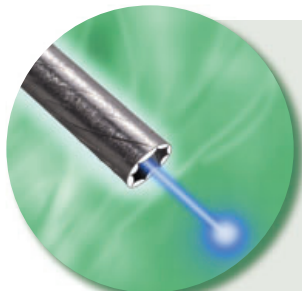
メディカル・OEM事業では、循環器以外の新領域分野への進出を積極的に展開しております。近年、政府の医療費抑制政策や価格競争激化による医療機器の市場価格低下に伴い、大手医療機器メーカーは販売に注力するために、製造については当社のような技術力・生産力に強みを持つ企業へのアウトソーシングに委ねる傾向にあります。これを背景に、国

内売上高は末梢血管系や腹部系製品などが増加いたしました。内視鏡関連製品が減少するなどし、ほぼ横ばいに推移いたしました。一方、海外売上高は米国向けの末梢血管系製品や脳血管系製品が増加するなどし、好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は8億99百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は2億8百万円（同19.4%増）となりました。

Device

デバイス事業（医療用部材・産業用部材）~高付加価値製品へのシフト~



ACTONE®（アクトワン）

デバイス事業では、医療機器分野及び産業機器分野における部材を取り扱っております。医療機器分野におきましては、米国企業向けの医療用部材はほぼ横ばいに推移したものの、国内企業向けの内視鏡関連部品の売上高が減少するなどし、売上高は減少いたしました。

また、産業機器分野におきましては、高付加価値製品へのシフト、販売価格の見直しに取り組んでおりますが、各市場

における景況感の悪化により、厳しい事業環境となっております。よって、海外向け自動車用ロープや漁業用イカ釣りロープなどが増加したものの、国内海外ともにOA機器市場を中心としてほぼ全ての市場において受注が減少し、売上高が減少するに至りました。

以上の結果、売上高は13億86百万円（前年同期比14.7%減）、営業利益は2億79百万円（同16.0%減）となりました。

注）各事業の前年同四半期比較にあたっては、前第2四半期の金額を変更後の区分に組替えて行っております。

ホームページにて、最新の情報をご覧ください。▶ <http://www.asahi-intecc.co.jp/>

第2四半期財務諸表（連結）

四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

科 目	第33期第2四半期 (平成20年12月31日現在)	第34期第2四半期 (平成21年12月31日現在)
【資産の部】		
流動資産	10,343,471	11,376,336
現金及び預金	3,597,871	4,808,165
受取手形及び売掛金	2,579,642	2,998,167
商品及び製品	1,124,056	745,770
仕掛品	1,052,240	1,341,890
原材料及び貯蔵品	965,361	644,689
その他	1,030,401	887,026
貸倒引当金	△6,102	△49,373
固定資産	8,935,769	9,539,604
有形固定資産	6,489,332	7,192,322
建物及び構築物（純額）	3,387,527	3,297,179
その他（純額）	3,101,805	3,895,143
無形固定資産	157,568	185,349
投資その他の資産	2,288,868	2,161,931
資産合計	19,279,240	20,915,940

（単位：千円）

科 目	第33期第2四半期 (平成20年12月31日現在)	第34期第2四半期 (平成21年12月31日現在)
【負債の部】		
流動負債	3,904,563	4,646,113
支払手形及び買掛金	247,591	242,059
短期借入金	2,382,560	2,931,092
未払法人税等	145,282	283,288
賞与引当金	101,028	110,338
その他	1,028,101	1,079,334
固定負債	4,191,824	3,331,217
長期借入金	3,434,826	2,536,374
退職給付引当金	255,734	274,032
役員退職慰労引当金	363,194	362,253
その他	138,069	158,558
負債合計	8,096,387	7,977,331
【純資産の部】		
株主資本	11,947,299	13,564,554
資本金	4,167,950	4,167,950
資本剰余金	4,060,960	4,060,960
利益剰余金	3,718,549	5,335,923
自己株式	△159	△278
評価・換算差額等	△764,446	△637,462
その他有価証券評価差額金	30,876	△38,103
為替換算調整勘定	△795,322	△599,359
新株予約権	—	11,516
純資産合計	11,182,853	12,938,609
負債純資産合計	19,279,240	20,915,940

四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	第33期第2四半期 (平成20年7月1日から 平成20年12月31日まで)	第34期第2四半期 (平成21年7月1日から 平成21年12月31日まで)
売上高	6,111,680	7,409,209
売上原価	2,841,974	3,230,294
売上総利益	3,269,705	4,178,915
販売費及び一般管理費	2,457,874	2,531,277
営業利益	811,831	1,647,637
営業外収益	88,249	42,217
営業外費用	510,232	128,590
経常利益	389,848	1,561,264
特別利益	506	8,852
特別損失	538,735	120,982
税金等調整前四半期純利益 又は純損失 (△)	△148,380	1,449,134
法人税、住民税及び事業税	232,493	427,081
法人税等調整額	△94,732	15,683
四半期純利益又は純損失 (△)	△286,141	1,006,370

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	第33期第2四半期 (平成20年7月1日から 平成20年12月31日まで)	第34期第2四半期 (平成21年7月1日から 平成21年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,056,463	1,584,873
投資活動によるキャッシュ・フロー	△533,829	△486,723
財務活動によるキャッシュ・フロー	362,235	△505,671
現金及び現金同等物に係る換算差額	△298,324	△26,847
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	586,545	565,632
現金及び現金同等物の期首残高	2,615,195	3,945,410
連結子会社の会計期間変更に伴う 現金及び現金同等物の増加額	99,062	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,300,803	4,511,042

会社の概要・株式の状況

▶ 会社の概要

商号	朝日インテック株式会社 ASAHI INTECC CO.,LTD.
設立	昭和51年7月8日
資本金	41億6,795万円
従業員数	●単体 352名(平成21年12月31日現在) ●連結2,444名(平成21年12月31日現在)
本社	〒463-0024 名古屋市守山区脇田町1703番地 TEL 052-768-1211(代)
事業内容	①循環器系疾患の治療及び診断分野においての低侵襲治療製品(治療用カテーテルシステム、検査用カテーテルシステム)の開発・製造・販売 ②消化器分野、循環器分野、透析分野、放射線分野における低侵襲治療製品及び医療部材の開発・製造・販売及びOEM供給 ③産業機器用極細ステンレスワイヤーロープの開発・製造・販売

役員(平成21年12月31日現在)

代表取締役会長	宮田尚彦
代表取締役社長	宮田昌彦
専務取締役	竹内謙次
常務取締役	福井芳彦
取締役	宮田憲次
取締役	湯川一平
取締役	加藤忠和
常勤監査役	渡辺行祥
監査役	佐藤昌巳
監査役	大林敏治

(注) 監査役佐藤昌巳、大林敏治は、社外監査役であります。

事務所

●国内事業所

東京営業所
名古屋営業所
大阪営業所
メディカル事業部
大阪R&Dセンター
大阪物流センター

東京都品川区
名古屋市守山区
大阪府和泉市
愛知県瀬戸市
大阪府和泉市
大阪府高石市

●海外事業所

香港支店
EU支店
シンガポール支店
北京駐在所
東莞石龍朝日精密鋼線廠

中国 香港
オランダ アムステルダム
シンガポール ビ شان地区
北京市朝陽区
中国 広東省東莞市

●子会社

ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD.
ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.
ASAHI INTECC USA,INC.
フィルムメック株式会社
朝日インテックJセールス株式会社
ジーマ株式会社

タイランド パトゥムタニ県
ベトナム ハノイ市
米国 カリフォルニア州
名古屋市守山区
東京都新宿区
静岡県袋井市(2010年1月7日より)



本社(名古屋市守山区)



ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.



ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD.



メディカル工場(左) デバイス工場(右)

▶ 株式の状況 (平成21年12月31日現在)

発行可能株式総数	50,000,000 株
発行済株式の総数	15,852,600 株 (自己株式174株含む)
株主数	2,856 名

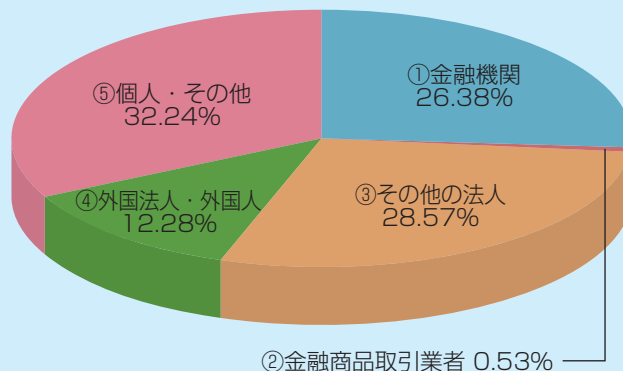
▶ 大株主の状況 (平成21年12月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,920,200	12.11
宮田昌彦	1,607,500	10.14
アイシーエスピー有限公司	1,500,000	9.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	762,300	4.80
宮田憲次	750,100	4.73
セント・ジュード・メディカル株式会社	708,000	4.46
株式会社ハイレックスコーポレーション	600,000	3.78
株式会社ホギメディカル	547,500	3.45
朝日インテック社員持株会	343,120	2.16
ノーザントラストカンパニーエイブイefシーリユーエスタックスエグゼンテッドペンションファンズ	328,500	2.07

(注) 持株比率は自己株式(174株)を控除して計算しております。

▶ 所有者別株式分布状況 (株式数15,852,600株、株主数2,856名)

- ①金融機関…………… 26.38%
- ②金融商品取引業者…………… 0.53%
- ③その他の法人…………… 28.57%
- ④外国法人・外国人…………… 12.28%
- ⑤個人・その他…………… 32.24%



▶ 株式に関する手続きについて

株券の電子化に伴い、証券口座等に記録された株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等を経由して行います。また、支払期間経過後の配当金のお支払い及び特別口座に記録された株主様の各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にてお取次ぎいたします。

○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定 (*) 	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
<ul style="list-style-type: none"> ○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	[手続き書類のご請求方法] <ul style="list-style-type: none"> ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/

(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

▶ 株主メモ

証券コード	7747
事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
決算期	6月30日
定時株主総会	毎年9月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 6月30日 中間配当金 12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
公告方法	当社ホームページ (http://www.asahi-intecc.co.jp/) に掲載します。 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所市場第二部 名古屋証券取引所市場第二部 ジャスダック証券取引所

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でのお支払いいたします。

IR情報は、ホームページ上でもご覧になれます。

ニュースリリース、財務情報、株主情報など、ホームページ上で最新の情報をご提供しております。

▶ <http://www.asahi-intecc.co.jp/>

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7747



いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶと4文字入れて検索してください。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本中間報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

その他ご意見がございましたら、誠に手数
数ですが当社ホームページ「お問い合わせ」
にご記入ください。

<http://www.asahi-intecc.co.jp/>



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」
サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細
<http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用さ
せていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL : 03-5777-3900 (平日10:00~17:30)
MAIL : info@e-kabunushi.com

 朝日インテック株式会社

〒463-0024 名古屋市守山区脇田町1703番地
TEL 052-768-1211 (代)

<http://www.asahi-intecc.co.jp/>



この印刷物は環境に配慮した
「大豆油インキ」を使用しています。